

日本漢方協会通信—①

2023年8月

安心してください？漢方相談師ですから

会員 小山 直弥

COVID-19 後遺症に対する日本漢方での治療については、様々な情報がありますが、確立されたエビデンスはまだ少ないようです。

一般的には、漢方では、ウイルスによるダメージや、心身バランスの失調、自律神経の失調などを漢方薬で調整することにより、新型コロナ後遺症の治療を進めています。

特に関係が深いのは、五臓の腎と心と肺です。

- 腎は「髓を生じ、脳に通じる」臓腑として、脳の機能と深く関係しています。感染症の影響で腎精が減少し、脳の機能が低下すると、疲労倦怠感、集中力の低下や記憶障害などのブレインフォグ、微熱、脱毛などの症状が残ります。
- 心は「神志（しんし）をつかさどる」臓腑として、人間の意識や判断、思惟などの人間らしい高次の精神活動（神志）をつかさどります。感染症により心気が弱まりこの証になると、思考力や集中力の低下（ブレインフォグ）や、息苦しさ、疲労倦怠感などの症状が残ります。
- 肺は「気をつかさどる」臓腑として、呼吸をつかさどります。肺の防御機能が弱いため、かぜや新型コロナウイルスなどの感染症にかかりやすく、嗅覚障害、咳、痰、息切れ、胸痛などの呼吸器系の後遺症も残りやすい体質です。

これらの臓腑の機能を補う漢方薬で治療します。具体的な漢方薬は、以下のようなものがあります。

- 腎精不足（じんせいぶそく）証：補中益気湯（ほちゅうえっきとう）や十全大補湯（じゅうぜんだいはとう）
- 心気虚（しんききょ）証：麻杏甘石湯（まきょうかんせきとう）＋胃苓湯（いれいとう）＋小柴胡湯加桔梗石膏（しょうさいことうかききょうせっこう）
- 肺気虚（はいききょ）証：黄連解毒湯（おうれんげどくとう）や清上防風湯（せいじょうぼうふうとう）や荊芥連翹湯（けいがいれんぎょうとう）
- 脾気虚（ひききょ）証：補中益気湯（ほちゅうえっきとう）や十全大補湯（じゅうぜんだいはとう）
- 肝鬱気滯（かんうつきたい）証：柴胡疏肝散（さいこそかんさん）や逍遙散（しょうようさん）

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

いかがでしょうか？以上の文章はMicrosoft アカウントがあれば誰でも使用できる Bing AI が生成したものです。驚きましたか？安心しましたか？生成系 AI は文字列の予測によって文章を作成するもので、Bing AI はウェブの情報を回答に織り込む性質上、質問によっては検索で上位表示されるウェブページの内容を正として回答する場合があります。しかし当然ながらインターネット上に存在する情報はすべてが正しいわけではありませんし、検索で一番上にくるページの情報が必ずしもユーザーにとって有益だとは限りません。

日本漢方協会総合講座では、来年度から4ヶ年プログラムがスタートし修了すると准漢方相談師、更にもう4ヶ年修了すると漢方相談師を取得できます。経験豊かな講師陣からじっくり時間をかけて正しい日本漢方の考え方を身につければ、生成系 AI の存在に脅威を感じることはないでしょう。

来年度からのプログラムでご自身の漢方知識をディープラーニングしてみませんか？